



所在地：千葉県山武市松尾町松尾 40-2 外
 用途：複合用途（公民館・児童福祉施設・店舗・飲食店）
 構造規模：木造一部鉄骨造 地上1階
 建築面積：1,584.23 m²
 延床面積：1,557.86 m²

建築作品部門

まちづくり全般

松尾交流センター洗心館

地域と繋がる複合公共建築

本施設が有する3つの機能はそれぞれ地域と密接な関係を有している。

●公民館—高等学校との繋がり

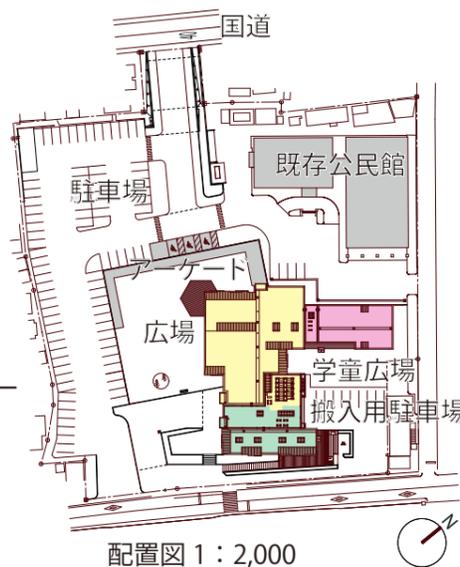
施設の中心に位置する4つのスタジオの活用プログラムの一つに、近接する千葉県立松尾高等学校とのネットワークがある。同校は平成27年度スーパーグローバルハイスクール指定校であり、多くの人たちが訪れやすい立地特性を活かしながら、若い世代の柔軟な発想を生かしたミクストコミュニティの輪が広がってゆくことが期待される。

●学童クラブ—小学校との繋がり

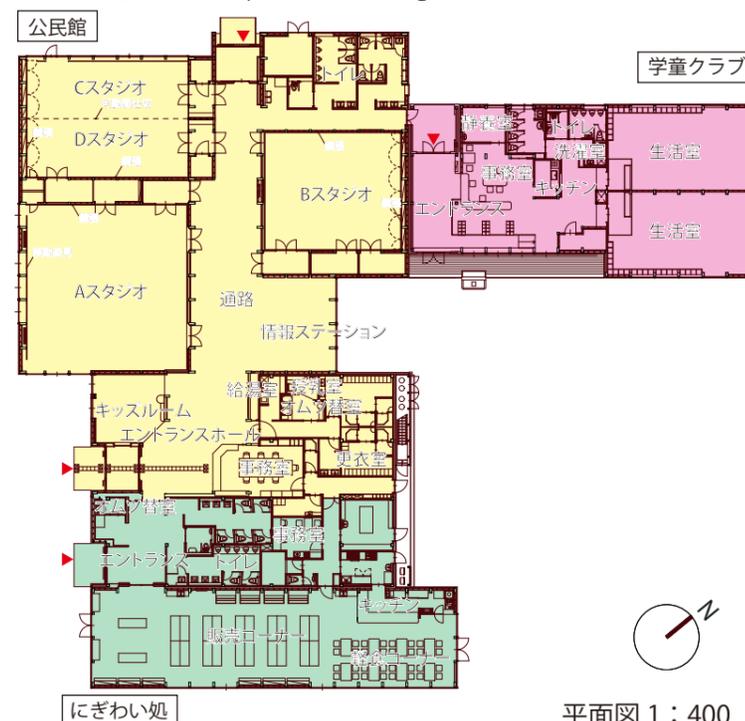
敷地奥側の落ち着いた場所に位置する学童クラブは、統一した形態をとりつつ管理運営上の区画を明確に計画するとともに、山武杉を内装仕上げ材として最も積極的に使用している。

●にぎわい処—商店街との繋がり

沿道には、地産地消型の店舗「にぎわい処」がある。アプローチ広場や敷地境界近くを店舗の延長的な外部空間として活用できる。大きな気積と内外の透過性を確保し、開放感や楽しげな雰囲気づくりによって利用者を誘引する。



Aスタジオ（公民館）



生活室（学童クラブ）



地産地消型店舗（にぎわい処）

JR 松尾駅から至近距離に位置し、公民館、学童クラブ、地産地消型の店舗の3つの機能を持つ複合型の地域交流拠点である。新たな地域コミュニティの核となる施設を計画するため、3年の歳月をかけて市と地域住民が研究会を行って計画された。

外観は、落ち着きを与える静的な外壁面とは対照的に、開口部はダンスをするかのようなリズムカルな線で割り付け、その面と線の繰り返しによって立面を構成する。動き・賑わい・変化を表象する黒い影絵のような開口部の奥に、木質空間の色味が重なる。

本建築の主構造は、千葉県産山武杉を過半とする国内産LVLを使用した木質ラーメン構造である。構造体のみならず、内装材においても積極的に千葉県産山武杉を使用することで、地域に根付き、世代を超えて人々に愛される公共建築の実現を目指した。



応募代表者：榎本 雅夫

株式会社 榎本建築設計事務所

1979年 榎本建築設計事務所

1997年 同代表取締役所長

実務経験年数 37年

本建築は駅前が単なる交通拠点ではなく、近隣の教育機関との連携や、多様な市民活動イベント、地産地消施設を集約することによって、「市民交流ネットワーク」の共有と活性化を意図したものである。